

佐々木祥二の政治活動と県政報告

VOL. 7

佐々木祥二事務所 ☎399-4105 駒ヶ根市赤須東1-35

TEL: 0265-81-4600

ホームページ: http://www.e-sasaki-web.com

E-mail: shoji306@clio.ne.jp

FAX: 0265-81-4621

地域発元氣UPを目指して!

読書の秋・スポーツの秋・総りの秋等々暑い夏も終わり、皆様には益々ご活躍のことと存じます。

今や世界経済はサブプライムローンによる膨大な損失の為に、アメリカの大手保険会社やメガバンクが、次々と経営破綻を招き、その影響は全世界に及んでおります。

国内においては、農薬やカビによる汚染米の販売や、中国産ミルクのメラミン混入など、食に対する安全問題をはじめ、次々と明るみになる厚生年金の掛け金の改ざん等々、安全・安心の生活が脅かされております。

そんな中で国の政局は、福田首相の突然の辞任により、麻生新総理大臣の誕生、衆議院の解散・総選挙等が噂され、毎日目まぐるしく変動致しております。

私も国や県政の情勢を見極めながら、地域の問題に積極的に取り組み、安全・安心の元氣な県土と駒ヶ根市の為に、毎日頑張っておりますが、日本が元氣になるには、先ず地域が元氣になることが、何よりも一番大切だと考えております。

毎月各地区へお邪魔して、県政の最近の情勢等をお話し、皆様のお声をお聞かせ戴いて、地域元氣UPの会を開催致しておりますので、御地で開催の折には、是非ご出席戴いてご意見を賜りたいと存じます。

長野県議会議員 佐々木祥二

皆さんのお声をお聞かせ下さい!

安全で安心の地域づくりを努力します。

※ 詳しい日々の活動については、ホームページのブログをご覧ください。

ページのブログをご覧ください。



農業改良普及センターの強化と有効活用も!

九月議会で佐々木議員は、一般質問で、①行政改革について、②技術職員の活用について、③中山間地域の活用について、知事及び担当部長に質しました。その中で、特に駒ヶ根市に關係する農業改良普及センターの廃止について抜粋しました。

佐々木議員 現地機関の見直しの中で、県民の所得に一番影響を及ぼす機関は、農業改良普及センターだと考える。

普及センターの仕事は、直接農家と接して、農業所得に影響を与え、農家の存亡さえ握っていると言っても過言ではない。そうした意味からも普及センターの再編は、もっと時間をかけて、農家の方々の意見を聴き、納得の上で進め、農業と農家の味方となる普及員の、更なる活用を図るべきと考えるが、県の所見をお伺いしたい。

9月議会一般質問

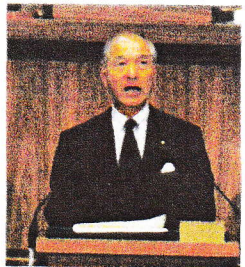
農政部長 今回の農業改良普及センターの組織改正は、「長野県 食と農業 農村振興計画」の推進のために、専門性・組織力を発揮しやすい体制として、関係市町村や農業者のグループ・団体等と意見交換を行ってきた。普及センターの活動は高度化する技術・経営への対応とともに、集落営農の推進など、今日的課題への組織的な対応強化してまいります。また重要な課題を抱える地域に対しては、地域担当係の設置など機動的で専門性を発揮できる活動体制を検討しております。

佐々木議員

技術職員の活用は、地域担当係を置くなど体制強化と業務の効率化を図ると同時に、



今迄の支所も有効に活用し、駐在員を置いて会議や相談は今迄どおり行う等の活用を強く要望する。また、新規就農準備校に対しては、長い目で見て土に根を張るまで支援し、成果を上げて戴きたい。



農政部長 駒ヶ根支所管内に対しては、地域担当係など普及として、専門性を発揮できる体制を検討している。駒ヶ根市で取り組まれている、新規就農準備校など新規就農者に対する支援については、農業を志す皆様が一日も早く自立できるよう、まさに普及センターが組織を挙げ、全力で対応すべく重要課題と認識しており、技術面・経営面の支援に引き続き努めてまいります。

衛生委員会便り

佐々木議員は、十月二日の衛生委員会にて、次のように質問しております。

佐々木議員

上伊那の人口十万人当たりの医師の数は、また地形的に南北に長く、辰野・伊那中央・昭和伊南の公立三病院があるが、その位置づけと役割分担、機能分担を、県はどのように考えて指導して行くのか。

医療政策課長

上伊那は人口十万人当たりの医師数は百九十人に対して百三十四・二人と少ない。公立病院が重要な役割を担っており、医師不足と診療科目によっては患者が集中、或いは新たな設備投資等の課題がある。現在公立病院改革プラン策定の流れの中で、分担と連携のあり方を地域が主体で考えてもらいたい。

佐々木議員

上伊那地域は県内でも医師不足が深刻。県として積極的な医師の確保をお願いしたい。

医師確保対策室長 上伊那は木曾に続いて医師が少ない地域であり、公的病院の役割が大きいと認識している。県全体の医師の絶対数が少ない状況下、全体のバランスの中で医師確保に努めていきたい。

佐々木議員

先般機能評価委員会、昭和伊南総合病院の機能評価を行ったが、当日の記者会見で機能不十分との発表をしてしまった。いきなりの発表で風評被害が出ており、当病院も困惑している。今後地域住民の不安・混乱を払拭するにはどのように考えているのか。

医療政策課長

当日の機能評価委員会としての意見交換の場合は、委員会の決定により非公開とされた。事後的に記者の方から要望があれば記者会見をするのが通例。その中で共同取材に応じた。

委員会の結論

を会議当日発表の場とする意図はなかった。その点は理解してほしい。地域の住民に不安を与えてしまった点については、救急救命センターが無くなれば、一次救急・二次救急も無くなるという誤解もあると思ふ。

佐々木議員

昭和伊南総合病院の救命救急センターは平成十七年六月議会で当時の部長が返上すべきとの発言以降の経過もある。その経過から県も支援すべきと考える。

医療政策課長

平成十七年当時と比べ医師数が急激に減っている。状況の変化を踏まえ県が一方的に提案するのではなく、地域の理解を得ながらやって行く。

佐々木議員

ねじれの原因は県にある。院長などと呼んでテーブルをつくり、県が主体で取り組んでほしい。

衛生部長

おっしゃるとおりである。上伊那の救急をどうするか、地域全体の足並みが揃わないといけない。

